

多田グリーンハイツ地区・清和台地区における 小学校統合計画について

1. これまでの経緯と現状

(1) 経緯

【平成27年8月】校区審議会からの答申を踏まえ統合計画を決定

児童数の減少傾向が続くという想定のもと、両地区での統合は、教育の質の維持・向上のため必要であると判断。

【平成28年6月】統合計画の再検討

児童数推計値と児童実数に乖離があったことや、計画決定までのプロセス（行政主導による意思決定）について見直しの必要があるとの判断から、当初の統合計画は再検討することとした。

(2) 現状

【平成29年2月～】手順書の作成と運用

「多田グリーンハイツ地区・清和台地区における学校配置の適正化に関する手順」を作成。

児童数推計に基づくのではなく、「両地区において、いずれかの学校の複数学年に単学級の実態が現れた時点から検討を始める」とした。

平成30年度当初時点では実態が現れなかったため、具体的な検討はスタートしていない。

2. 課題

平成29年5月以降、「学校配置の適正化に関する手順」に関する説明を保護者や地域住民へ行い、統合年度や使用する学校の選定は未定であることを伝えた。しかしながら、保護者や地域住民からは十分な理解が得られていない。

<主な意見>

- ① 統合することが前提となっていることに不満
- ② 検討を開始する時期が拙速すぎる（100人以下くらいで良い）
- ③ 「手順」の必要性が不明（白紙で構わないのではないか）
- ④ 多田グリーンハイツ地区では、児童数が増えてきている
- ⑤ 統合の計画だけあって時期が未定なことで、地域が混乱し、転入者が敬遠する
- ⑥ 跡地利用についても併せて検討すべき

3. 判断

両地区における小学校統合計画は白紙とする

【理由】

- ① これまでの進め方では、保護者や地域住民の皆様の声を十分に把握できていなかった
- ② 学校配置は、教育の視点のみではなく「まちづくり」の視点と合わせて検討する必要がある

今後は、保護者や各地域の皆様のご意見をお聴きしながら、市全体の課題として改めて検討する

4. 周知方法

- ① 市ホームページ掲載
 - ② 当該4校保護者への文書配布
 - ③ 両地区の自治会での文書回覧
- の方法により住民へ周知